

# 愛媛県立中央病院東洋医学研究所活動報告

所長	光藤英彦
部長	山岡傳一郎
専攻医	若松貴哉
鍼灸部	村山功
	上郷樹夫
	玉井弘文
	山見宝
	益田修
	山下清治 (3月退職)
	真鍋昭生
研修鍼灸師	谷口一也
	田代潔 (3月転出)
	鈴木彰子 (3月転出)
	古野史花 (4月から)
研修医師 (国内留学)	高橋誠 (3月転出)
薬局	梶川康子
	赤崎達子
看護部	福岡文子
	藤本禮子 (3月退職)
	山内和子 (4月から)
事務	岡本美弥香 (3月退職)
	塩崎涼子 (3月退職)
	黒田賀世 (4月から)
	戸田安津子 (4月から)

## 1. 研究所概要と診療状況

今年(2003年)は東洋医学研究所が開設されて25年目の節目にあたる。1979年(昭和54年)8月開設以来、四半世紀にわたって東洋医学、とりわけ灸療の普及に力を入れてきたが、山あり谷ありの四半世紀であった。最近のデフレ不況の中、今年の4月からサラリーマンの診療負担が3割に上がり、医療を取り巻く環境もますます厳しくなる一方で、明るい未来がなかなか見えてこない。しかしながら、高齢化社会となっていく日本において、東洋医学に対する需要は決して少なくないと思われ、東洋医学研究所が明るい地域社会の構築の一助になるよう所員一同、研究諸活動に全力を尽くす覚悟である。

以下に、2002年度(1~12月)の業績と活動内容を報告する。

### ①東洋医学研究所における診療について

私共の研究所は開所以来一貫して灸療主体の診療を続けてきた。過去20年は少しずつではあるが

徐々に受診者数も増加傾向を続けていたが、ここ数年の受診者数は年間延べ18000人前後、新患者も600人前後と横這い状態が続いている。現在、医師3名、鍼灸師6名、看護婦2名、薬剤師2名の診療スタッフがそれぞれの見地、立場からチーム医療としての東洋医学の確立と、「お灸文化」を後世に残すため、地に足のついた東洋医学的医療の構築を模索し続けている。

### ②東洋医学研修事業について

東洋医学に関する研修事業は、本来的には、医師、鍼灸師、薬剤師、看護婦、受付けの5部門においてそれぞれ必要性があると考えられる。私共のところでは、医師と鍼灸部門での研修が始まったばかりである。将来的には上記5部門のすべての研修事業を試みる予定である。

医師部門では、平成5年度より東洋医学専攻研修医制度を設け、すでに専門的な臨床経験を積んだ専攻医が、毎年1名ずつ東洋医学(鍼灸・湯液両方)の研修を行っている。今までに4名の専攻医が育っている。将来東洋医学を専攻することを目的として全科的なローテイト研修を始めた新卒研修医が育ちつつある。また将来的には全国公募の研修医制度を実施することが期待されている。

鍼灸部門では、平成9年4月より鍼灸技術研修事業を開始した。この研修は、主に次の5つを目的としている。

- (1)高齢社会における『お灸によるケア』の指導者としての技量の養成
- (2)全人的病人把握法としての問診法(時系列分析法)のマスター
- (3)鍼灸・漢方を含む東洋医学全般の学習
- (4)現代医学の基礎学習と実施研修
- (5)現代医療の中でメディカルスタッフの一員としての臨床的鍼灸実践

今年で6年目を迎えた事業であるが、今までに9名の研修鍼灸師が研修を終え新しい社会に飛び立っていった。これまでは関西鍼灸短期大学や明治鍼灸大学の卒業生が主であったが、平成12年度から専門学校卒業生も受け入れる体制を取り、現在男子1名、女子1名の計2名の鍼灸師が研修中である。それぞれ熱心に所内スタッフから臨床実習と多方面の学習を積み重ねている。平成15年度も若干名の研修生を受け入れる予定で、今後も鍼灸技術研修事業は継続するつもりである。

看護部門に関しては、所長光藤が平成10年秋か

ら愛媛県立医療短期大学の看護部門での講義を担当している。今後の看護部門における東洋医学的研修の礎が築かれるのではないだろうか。

### ③西海町国保健康づくり推進事業について

平成8年度からの5年間、国(厚生省)と町(西海町)の協力によって計画された灸療普及技術支援活動が平成12年度を以て終了した。最終年度となった平成12年度は、西海町主催のもと、西海町健康祭り(平成12年12月10日)を開催し、「仲間づくりと町づくり」をテーマに健康シンポジウムなどを行った。また、事業の総まとめとした事業報告書『国保総合健康づくり推進事業報告書』(西海町役場住民環境課発行)の作成にかかわり、今後東医研の行う地域活動の土台づくりとなった。2001年(平成13年)からは、東洋医学研究所が主体となって年に1,2回程度の灸療活動を継続し、その後の住民の健康調査などを行うこととした。ちなみに2001年は9月に、2002年は11月に行った。今後は、全国レベルにおいても同じような東洋医学による健康普及活動が展開されることを期待したい。

### ④愛媛新聞カルチャースクール一般講座について

東洋医学の啓蒙普及活動の一環として、平成2年度より毎年10月頃(当初は春)に開催されてきた特別講座が平成12年をもって終了した。東洋医学全般にわたっての講義や灸療実技の指導を取り入れ、毎年好評を得てきた。平成13年度(2001年4月から2002年3月)は毎月1回(第2土曜日)開催の一般講座『東洋医学と健康』へ衣替えして、東洋医学総論から各論的になかなかレベルの高い内容(具体的には深谷伊三郎氏の著作『お灸で病気を治した話』の中の症例を参考とした)となっている。毎回研究所の診療に携わる医師・鍼灸師・薬剤師が持ち回りで講義を行った。2002年4月から引き続き、毎月1回行っているところである。

### ⑤灸療ボランティア活動について

東洋医学研究所は開所以来、一貫して灸療を中心とした診療を続けてきた。四国地方は昔からお灸が盛んな土地柄で、県民にもなじみ深い療法として知られている。しかし近年、核家族化が進み一人暮らしのお年寄りや高齢者だけの家庭が増え、自宅で背中にお灸のできない人が目立ち始め、研究所の診療システムになじまない人が多く見かけられるようになった。そこで、背部施灸のできない人たちに灸療の良さを理解してもらい、その普及と鍼灸師の研修を兼ねる目的で、平成13年3月より、研修鍼灸師による施灸ボランティアサー

ビスの提供を以下の要領で開始した。

(1)対象者は東医研通院患者とし、通常の診療日以外に実施する(通常の再診と区別するため)。

(2)施灸ボランティア活動は午後のみとし、研修鍼灸師が担当する。

(3)施灸は背部施灸を中心とし、できるだけ自己施灸・家族施灸へ指導・誘導する。

2001年(平成13年)3月から始めた活動であるが、徐々に利用者も増えてきており、12月までの利用者は62名、延利用者総数は317名にのぼった。2002年(平成14年)では、利用者は58名、延利用者総数は668名を数え、月平均50名~60名の人が利用している。最近ボランティア施灸の人員を確保するのが難しい状況になってきたが、「お灸文化」の存続・継承の牽引車として今後も引き続き行っていくつもりである。

### ⑥東洋医学啓蒙活動について

愛媛県内の各市町村だけでなく他の府県からの東洋医学全般の講演・健康まつりなどの実施依頼に対して、灸療による健康作りや講演会の開催及び灸療実技などを中心として、東洋医学の啓蒙活動に努めてきた。愛媛新聞カルチャースクールや、単発的な講演会などは以前からあったが、高齢化社会を迎えて東洋医学の需要が増大していくと予想され、これからは定期的な継続事業として力を注ぐつもりである。東洋医学にとって鍼灸と漢方が車の両輪に例えられるように、鍼灸だけでなく漢方薬の啓蒙にも力を注いでいきたい。

## 2. 学会報告

- 1) 山岡傳一郎, 梶川康子, 光藤英彦: 入院患者の早期退院支援のための東洋医学の運用, 第53回日本東洋医学会学術総会, 名古屋国際会議場, 名古屋市, 2002. 5. 31
- 2) 光藤英彦: 時系列分析の参考資料としての内経諸篇について, 第53回日本東洋医学会学術総会, 名古屋国際会議場, 名古屋市, 2002. 6. 1
- 3) 若松貴哉, 光藤英彦: 当研究所における項部充血斑に対する治療への考察, 第53回日本東洋医学会学術総会, 名古屋国際会議場, 名古屋市, 2002. 6. 1
- 4) 山見 宝, 山岡傳一郎, 光藤英彦: 「鍼灸技術研修を導入して」~東洋医学研究所における試み~, 第51回全日本鍼灸学会学術大会, つくば国際会議場, 茨城県つくば市, 2002. 6. 7
- 5) 山岡傳一郎: 傷寒論の世界とその臨床応用, 第161回熊本県東方医学研修会, 熊本県産業

- 文化会館，熊本市，2002. 8. 17
- 6) 山岡傳一郎：東洋医学の世界，平成14年度コミュニティカレッジリカレント学習セミナー，愛媛県総合福祉センター，松山市，2002. 10. 12
  - 7) 若松貴哉：康治本傷寒論の学び方，第27回日本東洋医学会愛媛県部会シンポジウム，愛媛県医師会，愛媛県松山市，2002. 10. 19
  - 8) 光藤英彦：愛媛東医研診療のIdentityと科学性，第31回日本東洋医学会中四国支部総会愛媛大会，愛媛県医師会，愛媛県松山市，2002. 10. 19
  - 9) 益田 修：刺絡概論，日本刺絡学会大阪刺絡講習会，森ノ宮医療学園，大阪市，2002. 10. 27
  - 10) 上郷樹夫，光藤英彦：喘息症状が細絡刺絡によって改善されたと思われる55才男性の一症例，第40回愛媛県立病院学会，社会福祉会館，愛媛県城辺町，2002. 11. 2
  - 11) 村山 功，光藤英彦：東洋医術運用にて複視が消失した一症例，第40回愛媛県立病院学会，社会福祉会館，愛媛県城辺町，2002. 11. 2
  - 12) 真鍋昭生，山岡傳一郎：退院後に発症した咽から胸への異常感が至陽・霊台の穴位所見と対応していたと考察される一症例，第40回愛媛県立病院学会，社会福祉会館，愛媛県城辺町，2002. 11. 2
  - 13) 赤崎達子，梶川康子，山岡傳一郎，光藤英彦：漢方薬の服薬指導について，第40回愛媛県立病院学会，社会福祉会館，愛媛県城辺町，2002. 11. 2
  - 14) 谷口一也，益田 修，山見 宝，山岡傳一郎：排尿障害における穴位主治条文の検討，第10回日本鍼灸臨床文献学会学術大会，京都府会館会議場，京都市，2002. 11. 23
3. その他の報告、講演等
- 1) 玉井弘文，田代 潔，鈴木彰子：お灸教室，生涯健康づくり教室，伊方町保健センター，愛媛県伊方町，2002. 1. 21
  - 2) 光藤英彦，玉井弘文，谷口一也，高橋 誠：在宅高齢者などを対象としたお灸教室，在宅高齢者に対する介護予防事業，久万町上野尻集会所，愛媛県久万町，2001. 3. 16
  - 3) 村山 功，谷口一也：在宅高齢者などを対象としたお灸教室，在宅高齢者に対する介護予防事業，久万町保険センター，愛媛県久万町，2002. 6. 29
  - 4) 玉井弘文：東洋医学と健康，川内町健康講座，川内町健康センター，愛媛県川内町，2002. 9. 3
  - 5) 玉井弘文，古野史花：東洋医学の世界，松山市生涯学習，松山市中央公民館，松山市，2002. 9. 6
  - 6) 玉井弘文：東洋医学と健康，小田町保健栄養学級，小田町保健センター，愛媛県小田町，2002. 10. 1
  - 7) 玉井弘文，谷口一也：東洋医学と女性，生涯を通じた女性の健康教室，東予市保健センター，愛媛県東予市，2002. 10. 3
  - 8) 玉井弘文，上郷樹夫：東洋医学と健康～ツボの活用とお灸の据え方～，伊予市健康まつり，愛媛県厚生年金休暇センター，愛媛県伊予市，2002. 10. 20
  - 9) 山岡傳一郎，若松貴哉，真鍋昭生，益田 修，谷口一也：西海町灸療普及活動，西海町国保健康づくり推進事業，西海町福浦公民館，愛媛県西海町，2002. 11. 9
  - 10) 玉井弘文：東洋医学の知識，愛媛県高齢者大学，愛媛県長寿社会振興センター，2002. 11. 12
  - 11) 真鍋昭生：東洋医学の知識，愛媛県高齢者大学，愛媛県長寿社会振興センター，2002. 11. 19
  - 12) 山見 宝，谷口一也：在宅高齢者などを対象としたお灸教室，在宅高齢者に対する介護予防事業，久万町保険センター，愛媛県久万町，2002. 11. 30

生涯健康づくり教室，伊方町保健センター，  
愛媛県伊方町，2002. 1. 21